



大野地区住民の多くは高隈演習林の造林事業に携わるなど、鹿児島大学と歴史的に深い繋がりを持つてきました。その後造林事業の縮小に伴い住民の演習林への関わりは減少してきましたが、時代が変わって現在は多くの鹿児島大学生が大野地区に関わるようになりました。

2006年3月の大野小中学校閉校に伴い、跡地を「大野ESD自然学校」として活用するようになりました。演習林と大野地区をフィールドに、子どもたちの自然体験活動をサポートするためのサークルとして「たかくま森人クラブ」が誕生しました。自然学校の活動のみならず、大野地区での農家のお手伝いやお祭り等の行事への参加など、多くの学生たちが大野地区に関わるようになって

りました。地区の伝統芸能である棒踊りも今では学生主体で踊るようになるなど、大野地区は農山村の暮らしと文化を若者が実践的に学び、次世代へ受け継いでいく拠点となっています。

学生の参加はサークル活動だけでなく、鹿児島大学の授業として実施されたり、また全国から大学生が集まる公開授業も行われています。農家民泊やフットパス、聞き書きワークショップなど多彩なプログラムがあり、参加学生と農家との長期的な交流にも繋がっています。



2006年の大野ESD自然学校設立に伴い、その活動をサポートする目的で鹿児島大学に作られたサークル「たかくま森人クラブ」の学生たちは、集落の清掃活動やお祭りなどの行事にも参加するようになり、大野地区住民と深く交流するようになりました。自然に囲まれ、自然とともに生きてきた住民の暮らしの知恵や文化にふれる経験を通じて、これらを次世代へ伝えていくことが持続可能な未来社会にとって重要なことであるということを考えるようになりました。

そして2013年、「たかくま森人クラブ」の卒業生を中心にNPO法人「森人くらぶ」が設立されまし

た。大野地区の自然と開拓の歴史の中で育まれた暮らしの文化を資源として、地区の産業・教育・文化・福祉に貢献する新たなソーシャルビジネスを起業することにより、豊かで持続可能な農山村社会の創出に貢献することを目的としています。現在は、大野ESD自然学校と連帯しながら、垂水市の子ども向けキャンプのスタッフ業務や家族連れや団体を対象とした演習林を利用した沢登りなどの環境教育・体験活動を行う傍ら、地域支援事業としてつらさげ芋の製造・販売から、各公民館活動への参加など、地域に密着した活動も精力的に行っています。